



我孫子市

Abiko city

令和4年3月29日
定例記者会見資料

近代舞台芸術の開拓者たちの資料を展示中

杉村楚人冠記念館企画展「楚人冠が見た舞台芸術 —オペラ・演劇・舞踊」

期 間 5月15日（日）まで（3月15日から開催中、月曜日休館）

入 館 料 一般300円／高校・大学生200円 中学生以下無料

開館時間 午前9時～午後4時30分（入館午後4時まで）

新聞記者・杉村楚人冠が交流を持った人物の中には、近代舞台芸術の開拓者というべき人々があります。今回の企画展では、その人々の書簡・書籍など、22点の資料を通じて、新たな舞台芸術が作られていった時代の雰囲気を感じることができます。

主な初公開資料は下記の通りです。

- もりりつ こしょかん 森律子書簡 大正5年（推定）11月8日
帝国劇場最初の女優の一人。「羽ばたきかぬる唾蟬より」と署名があり、女優という新しい職業への無理解・偏見に苦闘する思いがうかがえる書簡。
- みうらたまき 三浦環書簡 大正3年（推定）10月17日
日本最初のオペラ歌手の一人。第一次世界大戦中にロンドンのコンサートに出演し、以降欧米で活躍。そのロンドン初出演のコンサートに関わる書簡。
- はらのぶこ 原信子書簡 大正4年（推定）12月12日
三浦の教え子で、日本人初のスカラ座（イタリア・ミラノ）専属となったオペラ歌手。それより以前の、アメリカへ視察に遊学した後の書簡。
- ふじかげしずえ 藤蔭静枝書簡 昭和3年（推定）10月12日
新舞踊運動の影響を受け、藤蔭流を興した日本舞踊家。永井荷風の妻（一年足らずで離婚）としても著名。欧州遊学を前に、パリの新聞記者の紹介を依頼する書簡。
- そがのやごろう 曾我廼家五郎書簡 昭和3年1月28日
松竹新喜劇の源流の一つ「曾我廼家劇」の創始者。杉村楚人冠の小説『うるさき人々』は澤田正二郎の新国劇と、曾我廼家劇で舞台化された。このことに関する書簡。

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会生涯学習部文化・スポーツ課
担当 （歴史文化財）今野

（杉村楚人冠記念館）高木

☎ 04-7185-1583（内線 70-840）